千間堀川

原　繁雄 調

千間堀は一宮市の西成地区を北から南へ流れる水路である。時之島の新般若用水から水を取り入れ、丹陽町外崎（どさき）地内で縁葉川（えんばがわ）に合流する。延長は６．４キロメートルである。

千間堀が築造された年月は詳らかではないが、天正年間（１５７３～１５９２年、安土桃山時代にほぼ重なる）と思われる。古代からこの地一帯は低地で排水が悪く、降雨が続くと一面湖水のようになり、滞水の被害は計り知れなかった。

時の浅野城主杉浦五左衛門は、困り果てた農民の姿を見るに忍びず、家臣を下流のあずら村や外崎村に送って交渉したがラチがあかなかった。

業を煮やした杉浦五左衛門は、ある夜家臣を武装させ、槍を仕立て浅野以北の農民を総動員して一千間の水路を切り拓いた。

このことから千間堀と呼称されるようになった。

谷鉦一著「西大海道土地改良史」より